

(別紙様式10)

平成 30 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
産学官連携フュージビリティ・スタディ
共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 『The Influence of Sub-State Actors on National Security』成果報告シンポジウム

研究期間: 2018 年度

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	
研究代表者	高橋美野梨	北海道大学・助教	国際政治学	
研究分担者 (拠点外)	齊藤孝祐	横浜国立大学・特任准教授	国際政治学	
	川名晋史	東京工業大学・准教授	国際政治学	
	小泉悠	未来工学研究所・研究員	国際政治学	
	波照間陽	早稲田大学・大学院生	国際政治学	
	清水文枝	国際情勢研究所・研究員	国際政治学	

(注 2) 計画申請書に含まれていなかった方でも結果的に本共同研究に参画された方(招へい者等)が居られれば、研究協力者として記述して下さい。

【研究の内容】

(1) 図表や写真も交えて、研究の内容や成果等を 1000 字程度で簡潔に以下にまとめてください。

本共同研究集会『The Influence of Sub-State Actors on National Security』成果報告シンポジウム』の目的は、H28 年度から継続実施している齊藤孝祐氏(横浜国立大学)を研究代表者とする北極域研究共同推進拠点・共同推進研究プロジェクト(下記3つのプロジェクト)の成果を、研究者のみならず、市民、業界団体、官公庁、一般企業関係者などに広く公開し、社会に還元しようとするところにあった。

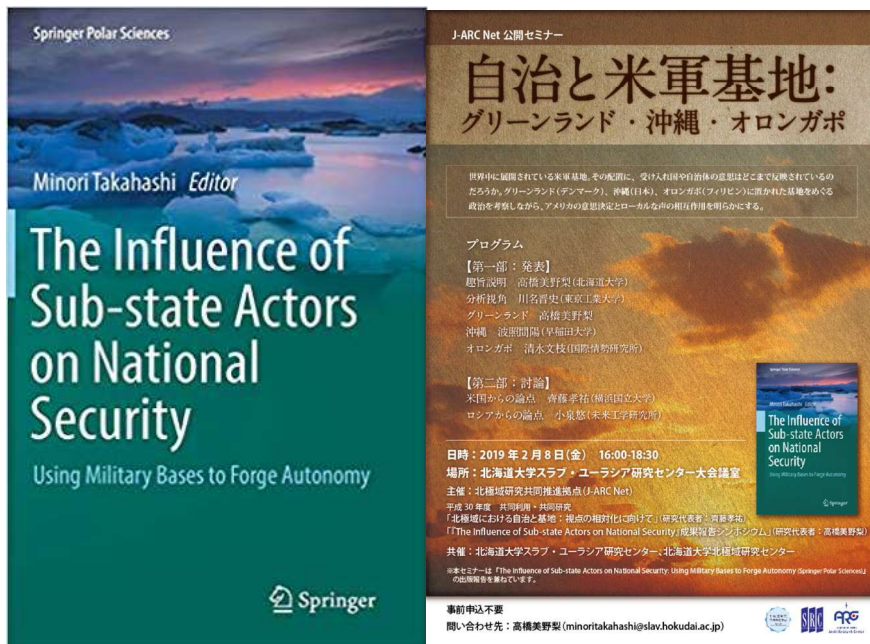
- H28 年度「アメリカの対北極域政策と関係諸国の反応」
- H29 年度「北極域の安全保障をめぐる多国間政治の展開」
- H30 年度「北極域における自治と基地」

上記共同研究の成果を基に実施された本集会では、下位国家主体の国際関係、とりわけ国家の専管領域として位置付けられる国家安全保障分野への影響力を評価する試みとして、在グリーンランド米軍基地(チューレ空軍基地)を主な事例として扱い、グリーンランド(下位国家主体)ーデンマーク(中央政府)間の接受国政治と同時に、設置国である米国、そして北極域での軍事活動を活発

化させるロシアを変数として組み込み、基地をめぐる歴史と争点を理論的・実証的に明らかにした。具体的には、基地をめぐる中央政府と下位国家主体との取引、すなわち中央政府の脆弱性を構成する要素(基地の代替性、緊要性、特殊性)と、それを統御せしめる基地の取引形態(統合、制度化、分散)、そしてその状況をふまえて非対称な力関係を反転させようとする下位国家主体によるホールドアップ効果とのバランスを、理論(川名)、中心事例(高橋)、米国(齊藤)、ロシア(小泉)、参照事例①: 沖縄(波照間)、参照事例②: オロンガポ(清水)の立て付けで、マルチアーカイブによる多角的アプローチから明らかにした。参照事例として沖縄(日本)とオロンガポ(フィリピン)を扱ったのは、何らかの要求を通せるタイミングがあったにもかかわらず、それが出来なかった沖縄、つまり下位国家主体の国家安全保障への影響力が小さかった／「失敗」した事例としての沖縄と、ローカルな声が中央政府の行動を制約した結果、米軍を撤退させた(追い出した)、すなわち下位国家主体の影響力が大きかった／「成功」した事例としてのオロンガポ(フィリピン)という、結果のコントラストをなす両者の政治的選択に注目するためであった。

本プロジェクトの学術的成果は、下記拙編著としてまとめた。本集会は、拙編著の出版報告を兼ねるものであった。

Minori Takahashi (ed.) (2019). *The Influence of Sub-state Actors on National Security: Using Military Bases to Forge Autonomy* (Springer Polar Sciences). Berlin/Heidelberg/Dordrecht/New York: Springer. <https://www.springer.com/gp/book/9783030016760>



(2) 本共同研究に関連する活動(出張、研究打合せ、会合等)を実施した場合には、延べ参加人数が算出できるように、下表に記入してください。

日程(月日)	日数 A	活動内容	場所	共同研究員・研究協力者の参加者名	参加者数 B	延人数 A × B
2019.2.8	1	クローズドな研究会	札幌	高橋美野梨、齊藤孝祐、川名晋史、小泉	6	6

		(9:00-12:00)、		悠、波照間陽、清水文枝		
2019.2.8	1	公開セミナー (16:00-18:30)	札幌	高橋美野梨、齊藤孝祐、川名晋史、小泉悠、波照間陽、清水文枝	43	43

【研究論文や著書等】

著者名，発行年，論文タイトル，掲載誌名，巻・号，ページ，DOI	査読の有無	IF	分野 (注3)
該当なし			

【研究発表】

発表年月日	発表者名	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演 (○)
該当なし					

【特許等】

該当なし

【本共同研究の枠組みで実施した集会(注4)等】

実施日	実施地	集会等名称	発表名・概略内容	対象者	参加人数 ()
該当なし					

【本共同研究の発展】

本共同研究の成果が科学研究費などの外部資金の応募やプロジェクトに発展した例があればご記入ください。

齊藤氏の報告書にも明記されているように、本集会を含むプロジェクト全体としては、H28-30年度のJ-ARC Net 助成以外にも、北極域研究推進プロジェクト(ArCS)やその中で展開される若手研究者海外派遣プログラム、科学研究費、三菱財団、笹川平和財団、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)、デンマーク・オールボー大学など多くの支援を得て展開されたものであったことを改めて強調したい。本プロジェクトは、上記の拙編著以外にもう一つ、齊藤氏の報告書にある共著の書籍の刊行によって終了となる。しかし、本プロジェクトと密接な係わりのある後継プロジェクトに限っても、投資問題研究会、比較基地政治研究会、島嶼政治研究会など、既に多くの共同研究プロジェクトが始動している。

【アウトリーチ、取材、その他】

該当なし